

【愛西市議会6月定例会】

まの和久議員の一般質問

消防団員の報酬見直しなど

待遇改善を求める



定員不足は、団員の負担増に
待遇改善で団員確保を

愛西市議会6月定例会で行われた日本共産党市議団の一般質問について、今号は、まの和久議員の質問を紹介します。

消防団員は、常備消防である愛西市消防署と共に、火災では、消火活動を行い、消火後の見回りなどもおこなっています。また、東日本大震災などの大規模災害が起こる中で、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が平成25年に制定されるなど、地域の防災活動の担い手としても期待されています。

4月の愛西市議補選で、日本共産党のふるかわ智康候補が、政策として掲げた消防団員の待遇改善について、まの議員が質問しました。

全国的に団員減少
市の消防団員は36人不足

まの和久議員は、まず、団員の募集状況について聞きました。

消防長は、「市の消防団員定数は、385人で、令和4年頃から減り始め、7年度は、36人の団員が不足している」と答えました。

定員不足は、団員の活動の負担を大きくし、団員不足の悪循環となりがねません。消防団の待遇改善が必要です。まの議員は、待遇改善策として、
①団員報酬の改善
②女性団員などが活動しやすい詰め所への改善
について質問。

町村合併以来20年、報酬は変わらず
出動報酬創設や費用弁償の引き上げを

市消防団員の報酬は団員で年額4万5000円、合併以来、一度も改定されていません。また、火災など災害時の出動報酬はなく、費用弁償1回3000円のみです。

令和3年に政府の消防庁長官から、「消防団員の報酬等の基準の策定について等」という通達が出され、団員不足で地域の防災力が低下しないよう、待遇改善を求めています。

そこには、

・報酬は、年額報酬（標準3万6500円）と出動報酬（標準8000円）2種類

・費用弁償は実費、必要額を措置する。

原水爆禁止世界大会に向けて
あいち平和行進が愛西市内を歩く

8月の原水爆禁止世界大会にむけ、東京から広島まで行われている平和行進が6月5日、愛西市内を行進し、沿道の人達に、核兵器廃絶と平和を訴えました。

愛西市では、佐織公民館で歓迎式が行われました。

日永貴章市長（代理）、近藤武市議会議長からの歓迎のあいさつの後、濱崎裕功愛西市原水協理事長は「90年代から、署名を集めてきた。1軒1軒訪ねて署名を訴えて歩いてきたことが、昨年のノーベル賞受賞に繋がり、嬉しかった。日本政府に核禁条約批准に力を入れていきたい」とあいさつしました。



などとされています。

まの議員は、通達にそって、出動報酬の創設、費用弁償の見直しを求めました。

消防長は、「年額報酬、出動報酬、費用弁償の等の金額や内容のあり方を総合的に勘案し、判断していきたい」と答えました。

まの議員は、消防団と協議しながら、報酬改善を行うよう求めました。

詰め所の改善
組織再編や詰め所の更新時に検討

まの議員は、女性団員のための、更衣室、トイレの設置などを求めました。

消防長は「女性団員からは、活動の中でトイレや着替えにこまったことは

ないと聞いているが、団の組織再編や現有詰め所の更新の際に検討すべきと考えている」と答えました。

永和中体育館の雨漏り
改修・改築もしっかり対策を

永和中学校体育館の改修・改築について、今年度、基本計画を策定しますが、今後、改修なら3年、改築なら4年がかかります。

まの議員は、「今、中学校に通っている生徒の利用を考えて、できうる対策を」と質問しました。

教育部長は、「今後も老朽化対策に取り組みたい。緊急性の高い修繕・工事は、優先的に取り組む」と答弁。